

阿蘇に水源涵養の森を

水土里ネットが2000本植樹

水源涵養（かんよう）の森を、として整備、長期的に維持・管理する。

白川水系最上流の阿蘇・高岳のふもとにつくろうと、流域の土地改良区で組織する「黒川、白川河川上下流域水土里（みどり）ネット連携協議会」が十一日、阿蘇市日の尾原野に二千本の広葉樹を植えた。今後五年間続け、計五畝に一万本植樹する予定。

日の尾原野は採草地だったが、地元の牧野組合が十年以上に「担い手不足」などを理由に野焼きを放棄。以後、放置状態が続いてきた。同ネットは、牧野組合と二十年の使用契約を締結。植樹のほか遊歩道やあずまやなどをつくり、憩いの広場

この日は、メンバー百九十人が参加。植樹式で「水土里ネットの森」の看板が除幕された後、モミジ、山桜、ケヤキ、コナラ、イチヨウの苗木を二本一本、丁寧に植えた。苗木の購入には県から補助金百万円を受けたという。

水土里ネット会長の吉田満雄さん（左）は「阿蘇市一の宮町宮地は「水源を守り育てよう」と、流域全体が一つになって、森づくりに励んだ。息長く活動を続けたい」と話していた。

（長崎恒作）

（長崎恒作）



阿蘇・高岳（後方）のふもとに広葉樹を植える水土里ネットのメンバー＝阿蘇市・日の尾原野